kouzashoukai 講座紹介

沖縄の医療を日本に、世界に発信

感染症・呼吸器・消化器内科学（第一内科）　平　田　哲　生

第一内科は講座の名前にあるように、感染症、呼吸器内科、消化器内科の分野を担当し診療、教育、研究を行っています。当科には光学医療診療部、感染対策室、肝疾患診療相談室、医学教育企画室、検査・輸血部などを含めますと、30人の医師が所属しています。また、大学院には外国人２人を含め、17人が所属し研究を行っています。当科の担当する３分野は救急疾患が多い上、他科入院患者のコンサルトも多く、医局員は忙しくも充実した日々を過ごしています。

感染症グループは藤田次郎教授のもと、全ての感染症において起炎菌の確定診断を目指しています。特に呼吸器感染症の起因病原体診断のためにmultiplex PCRとマイクロチップ電気泳動装置を用いて各種細菌、ウイルス、非定型病原体などの検出をおこなっています。2012年には本院及び他院でのヒト･メタニューモウイルスの大量集団感染事例を診断しました。また、感染対策室と共同してインフルエンザ対策や種々の院内感染対策を行っています。

感染症グループ内には健山正男准教授を中心とするHIVグループがあります。当院はエイズ中核拠点病院としては西日本で最も多い200人強の患者の診療実績があります。臨床研究では現在、HIV領域で注目を集めるHIV Associated Neurocognitive disordersの診断実績では国内トップであり、神経心理検査および画像検査、バイオマーカーの観点から数多く報告しており、その成果は国内でも高く評価されてます。

呼吸器グループでは藤田教授のもと感染症の他に、肺癌、間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患などの診療を行っています。肺癌は年々増加しており、当院には常に多数の肺癌患者が入院していますので、第二外科（呼吸器外科）、放射線科、麻酔科、整形外科などの科と連携し、最善と考えられる治療を行っています。

消化器グループは光学医療診療部部長の外間昭准教授を中心に消化管、肝臓、胆膵の３グループに分かれ診療を行っています。

消化管グループでは、炎症性腸疾患の診療や消化管の早期癌に対する内視鏡的治療を積極的に行っています。また、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡による小腸検査、炎症性腸疾患に対する生物学的製剤による治療やピロリ菌の三次除菌を推進しています。研究においては、糞線虫の疫学調査とDNA解析、炎症性腸疾患に合併して重篤化するサイトメガロウイルス感染のmultiplex PCR検査による早期診断法の確立に取り組んでいます。

肝臓グループは診療においては、B型及びC型慢性肝炎における抗ウイルス療法と合併する肝硬変や肝癌の治療を推進しています。高次機能病院として、劇症肝炎の集学的治療や肝移植施設への橋渡しを迅速に行っています。肝疾患診療拠点病院として、日本肝臓学会の市民公開講座の定期的な開催や肝疾患診療相談室の運営を行い、県内の肝炎診療ネットワークの中核を務めています。研究においては、多施設と共同して肝炎ウイルスの遺伝子検索を行っています。

胆膵グループは診療においては、発展目覚ましい内視鏡的逆行性胆管膵管造影と超音波内視鏡検査を駆使して診断と治療を行っています。特に、超音波内視鏡下穿刺吸引術や胆管･膵管のステント治療を推進しています。

以上のように第一内科は勢力的に診療、研究を行っています。当科についてもっと知りたい方は是非ホームページhttp://www.ryukyu-med1.com/もご覧下さい。